

# 22 相談から就農後の定着まで一貫したサポート

## ■ 東讃管内新規就農者 ■

(東讃農業改良普及センター 大西智司、○佐治博子)

### ●対象の概要

東讃地域の新規就農者は、平成27年度52名で、特に農業法人へ就業するケースが増加しており、新規就農者の約半数を占めている。また、法人就農以外にも非農家出身や県外からの新規参入は2割を占め、就農形態の多様化とともに就農相談の内容は多岐にわたるものとなっている。

表-1 東讃管内の就農状況 (名)

年度	形態	就農者数	計
平成23年	新規学卒	2	24
	帰農就農	8	
	新規参入	5	
	法人就農	9	
平成24年	新規学卒	0	27
	帰農就農	11	
	新規参入	7	
	法人就農	9	
平成25年	新規学卒	0	23
	帰農就農	3	
	新規参入	8	
	法人就農	12	
平成26年	新規学卒	0	54
	帰農就農	17	
	新規参入	12	
	法人就農	25	
平成27年	新規学卒	0	52
	帰農就農	14	
	新規参入	9	
	法人就農	29	

### ●課題を取り上げた理由

平成27年度の就農相談件数(就農後を含む)は、延べ512件(実数156名、うち就農者95名)である。近年、就農相談の件数は多いものの、これまで農業に関わりがなく、興味本位で就農を希望する者が多く、実効的な就農に結びついていないケースもみられる。

また、新規参入者は、技術研修先の選択、農地

や住居、機械、施設、労働力の確保など、帰農就農者よりも多くの課題を抱えているにも関わらず、就農について安易に考えている傾向がみられる。

新規就農者は、全般的に、技術面が未熟なため天候不順に対応できず、品質低下や収量不足に陥ったり、良好な農地が手に入りやすく、土壌環境が悪い中での作付けとなるなどの様々な課題を抱えている。このため、本人が経営開始時に作成した営農計画どおりに進んでいない者も見受けられる。

このような現状から、就農希望者・新規就農者に対し、相談から就農後の定着までの継続的かつ重点的な支援を行うことが必要である。

### ●普及活動の経過

#### 1 就農相談活動の実施

技術担当や関係機関連携のワンストップ化による就農相談を実施するとともに、新規就農者の初期投資を抑えるために、関係機関で中古資産の情報収集や共有化に努めた。

農業経験のない就農希望者については、原則、実践研修を実施するよう指導し、研修先のマッチングやJA農業インターン制度および青年就農給付金(準備型)制度などの活用について情報提供を行った。

また、就農間近の者に対しては、青年等就農計画の策定支援を行うとともに、青年就農給付金(経営開始型)や制度資金、補助事業など施策の積極的な活用を支援した。

#### 2 早期経営安定のための支援

##### 1) 営農状況の確認

本県農業の将来を担う青年就農給付金(経営開始型)受給者に対しては、栽培技術や経営・労務管理など、様々な指導・支援が必要である。このため、受給者ごとの指導カードを整備し、受給者の状況を各担当普及員が把握したうえで、普及活動に取り組んだ。また、半期に一度は、市町、JAおよび技術担当が現地で営農状況を確認し、青

年等就農計画の実現に向けた指導・助言を行った。さらに、現地確認後、重点的な支援が必要な新規就農者に対しては、普及センターが個別巡回を行っている。

## 2) ステップアップセミナーの開催

今年度から、青年就農給付金（経営開始型）を受給している管内の新規就農者（67名）などを対象に、経営の安定に必要な基礎知識が習得できる「東讃地域新規就農者ステップアップセミナー」を年間5回シリーズで開催し、延べ92名が参加した。

月 日	テーマ	参加者数
4/27	ビジネスナーとヒューマンスキル講座	10名
7/10, 31	先輩農業者から学ぶ	32名
8/18	農業経営フォローアップ講座	13名
12/15	機械のメンテナンス講座	15名
2/18	アグリフードEXPO2016大阪	22名



第4回 機械のメンテナンス講座

## 3) 地域におけるネットワークづくりの支援

就農希望者や新規就農者と、先輩農業者や関係機関などとのネットワークづくりを目的として、7月に農業士会主催のもと、大川と高松の2地区で交流会を実施した。

また、8月と11月には、女性新規就農者のネットワークづくりと経営の安定に向けた課題解決を図るため、昨年度設立された「東讃地域農ガールプロジェクト」の活動を支援した。

## 3 地域農業への理解促進と就農意欲の醸成

10月に農業高校生47名を対象に「東讃地域農業学習」を開催し、地域農業の理解促進を図るとともに、12月には、石田高校の1年生を対象に東讃地区農業後継者クラブ員との、農業現場を伝える連携授業を開催し、将来の担い手確保の布石を投じた。

## ●普及活動の成果

### 1 新規就農者の定着・経営安定を支援

今年度から新たに開始した5回シリーズの年間セミナーで、新規就農者が必要な基礎知識が学べる機会を提供するとともに、新規就農者間の交流を促進することで、新規就農者の定着及び経営の安定を支援することができた。

### 2 技術担当等との情報共有

新規就農者について、技術担当や関係機関との情報共有化および連携強化に努めることにより、計画どおりに進んでいない新規就農者に対して、重点的かつ丁寧な支援を行い、経営の見直しを図ることができた。

### 3 就農意欲の醸成

農業高校生に対して農業現場を伝える連携授業の仕組みを農業高校と連携して構築したことで、農業高校生が農業インターンシップに取り組みきっかけづくりとなり、農業高校の新規学卒者が就農する可能性を高めることができた。

## ●今後の普及活動の課題

### 1 定着および経営安定まで総合的な支援

就農後の経営状況については、現地巡回による営農状況確認や普及活動により、当初の計画目標どおりに進んでいない場合が多いことが、再認識された。

このことから、引き続き技術担当や関係機関と情報共有をしながら経営安定化に向けて重点的に助言・指導をしていくとともに、新規就農者が必要な基礎知識が習得できる年間セミナーを来年度も継続して実施する。

また、関係機関からなるチームをつくり、県域と地域の情報共有化による総合的な就農支援（募集、相談、斡旋、調整）を強化するとともに、新規就農者の初期投資を抑えるために、中古資産の活用を促進する。

### 2 法人就業への支援

今年度末に実施した法人就業に関するアンケート結果を活かし、今後増加が見込まれる法人就業への支援を強化する。